

# 人権だより No.290(2022.4)

じんけん しあわ  
人権= 幸せになること

人権教育相談部・部長 岩崎 朋子

昨年、中学校3年間の担任を終えた。高校教員の私にとって、中学生を教える不安は常に付きまとった。中学1年生から3年生までの多感な時期を任されたことは、今を思えば、非常に光栄なことなのだが、試行錯誤の毎日であった。中学1年生にどうやって部落問題を教えるのか。小学校の学びが統一ではない彼らにどのように部落差別に出合わせるのか。悩み抜き、ひとつの答えに行き着いた。「学びがバラバラだからこそ、中学1年生から、きちんとスタート地点に立って同和教育を始めるんだ」と。

それ以来、人権・同和教育では、“指導”ではなく“始動”、“教育”ではなく“共育”を心がけた。生徒はそんな私にいつも「そういうあなたは、どうなんだ?」「本気でやっているのか?」と問いかけてきた。また中学1年生の担任をしていたときに会った宇和島市最後の識字学級生のおばあさんの一言が支えとなり、今も私を奮起させる。「人と人とのつながりが一番大事よ」。部落問題となったら、見て見ぬふり、人と人とのつながりが切れてしまう、それが部落問題の現実である。だからこそ、そういった差別と闘ってきたおばあさんの言葉は強く、温かく、そして重い。

この3年間の中で、差別を見抜き、学びを行動へと移した共育者を紹介する。髪の毛にゴミが付いていた生徒を見てその状況をはやし立てている集団がいるなか、その子は友だちに声をかけ、友だちと一緒に「ゴミが付いているから、取るね」とそっとゴミを取ったそうだ。ひとりでは勇気が持てなくても、友だちと一緒になら「おかしいことは、おかしい」と言える。自分でできることを、自分のやり方で実践したその姿に、同じ共育者として心を打たれた。

「私は差別をしない」で満足するのではなく、「私(私たち)が差別をなくすんだ」という視点に立とう。また「ひとりぼっちをつくらない。仲間になる」この意識をひとりひとりが持てば、クラスが、学年が、学校が居心地の良い場所になるはずだ。更に「ひとりぼっちをつくらない」という視点を地域にも目を向けて、一昨年より実施している「子ども食堂」ボランティアの参加もしてみよう。サポートが必要な人たちを放っておかない。私たちの手で“うわじま ころまじわうところ”にしていきたい。

今年1月恩師の突然の訃報に心が打ちひしがれた。昨年、本校発行の“南校羅針盤”に次のように寄稿されていた。「学ばざれば苦し(くらし)、思えば学ばざれば殆し(あやうし)。「学んでも自ら考えなければダメだ、本当の知識にはならない。たとえ自ら考えていても学ばなければ、その人の行動は危うい」という意味で、恩師は「問題解決につながるような知恵は大きな努力と体験がないとなかなか手に入りません。だから、行動しながら学ばし、何歳になっても学び

続けるのです」と言葉を添えている。今となつては、もう二度と声も想いも聞くことができない。自身の体調が思わしくない状況下でも、弱い立場の人の声に耳を傾け、寄り添い続けた恩師の姿を忘れるわけにはいかない。

令和4年度がスタートした。今年はちょうど全国水平社創立100周年の節目である。誰かのことでなく、自分のこととして、ひとりひとりがありのままに生きる幸せ＝“人権”を感じられる人の森へ…、共に集まろう！  
～大本浩之先生に捧ぐ～

## 南校人権教育部 自己紹介

○岩崎 朋子 3年2組 副担任 教科:英語 ※冒頭執筆

○上谷 香織 1年3組 副担任 教科:国語

4月から本校でも女子の制服にスラックスが導入され、新入生、在校生問わず、スラックス姿の生徒を見かけるようになりました。新しい制服を軽やかに着こなしているみなさんを見て、思わず「素敵ね」と声を掛けてしまいました。これまでの当たり前が当たり前でなくなったのを感じた瞬間でした。新しい時代に生きるみなさんが、さまざまな選択を自信を持って行えるよう、私もみなさんと一緒に学びを深めていきたいと思います。

○山岡 愛 3年3組 担任 教科:音楽

「差別はたいてい悪意のない人がする」という本を読みました。著者は韓国の女性大学教授ですので、内容も韓国の様々な差別について書かれていますが、日本でもあり得ることだと置き換えて読むことができます。日常生活で、「これは差別だ」「偏見だ」と思うことに対して、公正な社会への道筋を教えてくれる本です。お勧めします！

○速水 和幸 3年1組 副担任 教科:英語

今年、北宇和高校から本校へ赴任したばかりです。他者感覚を大切に、自分を磨き、周りの人とうまくやっていくことはとても大切なことですよね。1日でも早くみなさんの顔を覚え、みなさんと人権の大切さをいっしょに学び、爽やかな気持ちで学校生活を送りたいと思っています。1年間よろしくお願ひします。

○黒江 崇宏 2年4組 担任 教科:理科

人権とは生まれながらに持つ権利と言われていますが、一人一人の思いやりの気持ちの上で成り立っています。あまりに身近で、普段は意識していないという人もいるかもしれません。授業だけでなくふとした時に、「常識」や「当たり前」のせいで困っている人はいないか、考えてみるだけで人権意識は高まると思います。みなさんの学校生活がより良いものになるように、一緒に考えていけたらと思います。

## 人権委員会の活動を紹介します。

### ・「人権を確かめあう日」の放送

「人権を確かめあう日」では、月に1回発行するこの「人権だより」を読んで、みんなで人権について考えます。朝の会・SHRの時間に実施しています。毎回、さまざまな先生方がさまざまなテーマで原稿を寄せてくださいます。一人一人、人権について改めて考えてもらいたいと思います。

### ・人権集会

2学期に人権集会を行います。人権委員の生徒が参加した校外の活動について報告したり、世の中にある人権問題についてまとめた内容を発表したりします。まずは「知る」ことから始めてみてください。

### ・文化祭での展示

文化祭では、みなさんに人権標語を考えてもらい、その中からいくつかの作品を展示する予定です。ぜひ足を運んでください。

この他にも、さまざまな活動を予定しています。